

○ 草の根パートナー型

平成22年度第2回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	マレーシア
2. 事業名	キナバタンガン川下流域の生物多様性保全のための住民参加型村おこしプロジェクト
3. 事業の背景と必要性	<p>キナバタンガン川下流域の湿地帯は世界有数の生物多様性を有しているが、森林伐採や油やしプランテーションの拡大が引き続き進んでおり、生態系の劣化とあいまって人々の暮らしの質も低下しているのが現状である。</p> <p>事業実施選定地域では、自然資源を活用した地域再生の取り組みが始められ、植林やエコツーリズムの振興を中心に活動している。しかし、植林については技術の不足から十分な成果が上がっておらず、エコツーリズムについても産業として成立するまでには至っていない。エコツーリズム対象地域の住民に対し環境教育を行い、地域の資源をうまく活用した様々な経済活動を模索することが重要であり、今後、対象地域で、自然環境の保全と持続可能な生計活動のモデルを確立する必要がある。</p>
4. プロジェクト目標	バトゥプティ地域及びアバイ村において、生物多様性に配慮した持続的な生計活動が確立される。
5. 対象地域	マレーシア国サバ州バトゥプティ地域及びアバイ村
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	バトゥプティ地域及びアバイ村の住民
7. 活動及び期待される成果	<p><成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 身近な環境に関する知識を得ることで、住民の環境意識が向上する。 持続的な生計活動に関するノウハウが定着する。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 土地利用、野生動物分布、地域環境、地域住民の環境に対する意識を調査し、分析する。 環境教育プログラムを作成・実施する。 住民参加型のエコツーリズムを確立する。 住民主体の一村一品事業計画の策定と実施を行う。
8. 実施期間	2012年8月～2016年7月（4年）
9. 事業費概算額	48,340千円
10. 事業の実施体制	<p>日本側（日本側支援体制） 酪農学園大学、EnVision環境保全事務所ならびに旭川市旭山動物園が中心となり、年間90日/人程度の現地滞在により助言を行う他、現地と密に連絡を取りながら国内で作業を行う。また国際NGOコンサベーションインターナショナルが協力機関として参画する。</p> <p>相手国側（相手国実施機関の概要等） 地元NGOのバトゥプティ村エコツーリズム協同組合（KOPEL）をカウンターパートとし事業を実施する。また、サバ州政府天然資源庁、サバ州政府野生生物局及びサバ大学熱帯生物多様性研究所が協力機関として参画する。</p>
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	学校法人 酪農学園
2. 活動内容	近年の日本社会は、農業生産人口の減少と、食料の輸入依存により、食料自給率が40%にまで低下している。生命の糧である食料を出来るだけ国内で確保することは国策としても大変重要であると考えており、それらを支える農業従事者ならびに農業・農村を支える人材の養成を行っている。